

デーヴォ ガイド



2025.3.10-16

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

10日 月曜

ヨハネ



19:31 その日は備え日であり、翌日の安息日は大いなる日であったので、ユダヤ人たちは、安息日に死体が十字架の上に残らないようにするため、その脚を折って取り降ろしてほしいとピラトに願い出た。

19:32 そこで、兵士たちが来て、イエスと一緒に十字架につけられた一人目の者と、もう一人の者の脚を折った。

19:33 イエスのところに来ると、すでに死んでいるのが分かったので、その脚を折らなかった。

19:34 しかし兵士の一人は、イエスの脇腹を槍で突き刺した。すると、すぐに血と水が出て来た。

19:35 これを目撃した者が証している。それは、あなたがたも信じるようになるためである。その証しは真実であり、その人は自分が真実を話していることを知っている。

19:36 これらのことが起こったのは、「彼の骨は、一つも折られることはない」とある聖書が成就するためであり、

19:37 また聖書の別のところで、「彼らは自分たちが突き刺した方を仰ぎ見る」と言われているからである。

19:38 その後で、イエスの弟子であったが、ユダヤ人を恐れてそれを隠していたアリマタヤのヨセフが、イエスのからだを取り降ろすことをピラトに願い出た。ピラトは許可を与えた。そこで彼はやって来て、イエスのからだを取り降ろした。

19:39 以前、夜イエスのところに来たニコデモも、没薬と沈香を混ぜ合わせたものを、百リトラほど持ってやって来た。

19:40 彼らはイエスのからだを取り、ユダヤ人の埋葬の習慣にしたがって、香料と一緒に亜麻布で巻いた。

19:41 イエスが十字架につけられた場所には園があり、そこに、まだだれも葬られたことのない新しい墓があった。

19:42 その日はユダヤ人の備え日であり、その墓が近かったので、彼らはそこにイエスを納めた。

安息日にはユダヤ教の規定があって、それに則って処刑が執行されました。安息日には仕事をしてはならないので、十字架刑を続けるわけにはいかず、通常ですとまだ生きている受刑者の足を折って、肩と肺に負担をかけて呼吸困難で即死させました。しかしイエス様の苦しみは通常よりも大きく、すでに死亡していたのです。

イエス様が墓から出たことは否定できないと判断した歴史家の中には、イエスは仮死状態だったのだとする者もありましたが、以上からイエス様は完全に死亡したのだとわかります。イエス様は氣を失った後に意識が戻ったのではなく、実際に死に、そしてその状態からよみがえったのです。

血と水は、医学的にはあり得ることで、相当の苦痛による心臓破裂ではないかと言われています。ヨハネはそこに霊的な意味を見たのでしょうか。血は死の代価としてのあがないを意味し、水はきよめを表すのだとしたら、そのメッセージは、十字架から贖いときよめの恵みが流れ出るということです。クリスチャンにとって恵は十字架からなのです。何かがあつごとくに常に十字架を仰ぎましよう。

アリマタヤのヨセフは、イエス様を死罪に定めた議会においては、その一議員でもありません。彼は「イエスの弟子ではあったがユダヤ人を恐れてそれを隠して」いたのです。議会は敵のようですが、その敵の一員と思われるような人々の中からも救いは起きるのです。大きな励ましです。ま

た救われてまもなくは、彼のようにまだ周囲を恐れるような人もいるでしょうが、それでも主は用いてくださいます。それは大きな希望であり、慰めです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11日 火曜

ヨハネ



20:1 さて、週の初めの日、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓にやって来て、墓から石が取りのけられているのを見た。
20:2 それで、走って、シモン・ペテロと、イエスが愛されたもう一人の弟子のところにやって、こう言った。「だれかが墓から主を取って行きました。どこに主を置いたのか、私たちには分かりません。」
20:3 そこで、ペテロともう一人の弟子は外に出て、墓へ行った。
20:4 二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子がペテロよりも速かったので、先に墓に着いた。
20:5 そして、身をかがめると、亜麻布が置いてあるのが見えたが、中に入らなかった。
20:6 彼に続いてシモン・ペテロも来て、墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。
20:7 イエスの頭を包んでいた布は亜麻布と一緒にではなく、離れたところに丸めてあった。
20:8 そのとき、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来た。そして見て、信じた。
20:9 彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかった。
20:10 それで、弟子たちは再び自分たちのところに帰って行った。

主イエスの復活の第一証言は、墓に行った人によるものです。彼らはそのような重要な使命をいただいたのですが、実はまだ「イエスが死人の中からよみがえらなければならない」ということを知らなかったとあります。実際、聖書に書いてあるその預言と必然性を人類は誰もまだ理解していなかったのです。それでも彼らが目撃者となり得たのは、彼ら

の信仰の在り方によります。

それは、まずイエスを愛して墓に行ったのです。期待も希望も砕かれて意気消沈している中で、イエス様に従った過去の意味もなくなってしまいました。それでも彼女たちはイエス様への愛を表したのです。私たちも、目的や期待に増して、相手のことを純粋に愛しているかどうかが問われます。

また兄弟姉妹と行動を共にしたのです。ペテロともうひとりの弟子（ヨハネ自身と考えられます）は、マリアたちの話を聞いて遺体がないことを知って、墓へ急いだのです。一緒に行動することはクリスチャンの力です。共に体験し、共に感じ、共に働くことができるからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 12日 水曜

ヨハネ



20:11 一方、マリアは墓の外にたたずんで泣いていた。そして、泣きながら、からだをかがめて墓の中をのぞき込んだ。

20:12 すると、白い衣を着た二人の御使いが、イエスのからだがかがれていた場所に、一人は頭のところに、一人は足のところに座っているのが見えた。

20:13 彼らはマリアに言った。「女の方、なぜ泣いているのですか。」彼女は言った。

「だれかが私の主を取って行きました。どこに主を置いたのか、私には分かりません。」

20:14 彼女はこう言うてから、うしろを振り向いた。そして、イエスが立っておられるのを見たが、それがイエスであることが分からなかった。

20:15 イエスは彼女に言われた。「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」彼女は、彼が園の管理人だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。私が引き取ります。」

20:16 イエスは彼女に言われた。「マリア。」彼女は振り向いて、ヘブル語で「ラボニ」、すなわち「先生」とイエスに言った。

20:17 イエスは彼女に言われた。「わたしにすがりついてはいけません。わたしはまだ父のもとに上っていないのです。わたしの兄弟たちのところに行って、『わたしは、わたしの父であり、あなたがたの父である方、わたしの神であり、あなたがたの神である方のもとに上る』と伝えなさい。」

20:18 マグダラのマリアは行って、弟子たちに「私は主を見ました」と言い、主が自分に

これらのことを話されると伝えた。

20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」

20:20 こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。

20:21 イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。」

20:22 こう言うてから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

20:23 あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦されます。赦さずに残すなら、そのまま残ります。」

マリアは泣いていました。神である主イエスであっても死のままでは、それは悲しみ以外の何ものでもありません。死の絶望の力はそれほど大きいのです。

マリアにとっては、希望もなく、どうしたらいいか全くわからない状況でした。心も弱くなって泣くしかなかったのです。解決などありませんでした。しかし、彼女はこのような状態の中でも、死んでしまった後でさえ、イエス様から離れなかったのです。いや遺体がなかったのですから、離れまいとしたのです。だからここで復活のイエス様にお会いすることができました。

彼女には何を悟れるような状態ではありませんでした。イエスご自身が彼女に分るように現れてくださいました。

何がであってもイエス様から離れないようにしましょう。たとえイエス様がもういなくなっている

ような絶望の中でも、イエス様を求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 13日 木曜

ヨハネ

20:24 十二弟子の一人で、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。

20:25 そこで、ほかの弟子たちは彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見て、釘の跡に指を入れ、その脇腹に手を入れてみなければ、決して信じません」と言った。

20:26 八日後、弟子たちは再び家の中におり、トマスも彼らと一緒にいた。戸には鍵がかけられていたが、イエスがやって来て、彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。

20:27 それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしの脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

20:28 トマスはイエスに答えた。「私の主、私の神よ。」

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」

20:30 イエスは弟子たちの前で、ほかにも多くのしるしを行われたが、それらはこの書には書かれていない。

20:31 これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。

トマスは信仰の仲間と一緒に行動していませんでした。また「主を見た」という仲間の証言を聞いたにも関わらず、それを信じませんでしたし、本当か



どうか調べることもなかったのです。ただ、自分は信じないと初めから決めていたようです。

もちろん何でもかんでも人の言うことを信じていたら、だまされることもありますし、周囲に流されるだけで、結果的には意見をころころ変えることになるでしょう。信じるとは、主のみことばを信じるということです。聖書のみことばによれば、主はよみがえるのであり、また主イエスご自身がよみがえりについて語っておられたのです。

また信じるとは信仰の証言を受け入れるということです。クリスチャンは共に交わり、分かち合い祈りあうというすばらしい特権があります。それには相手を尊重して受け入れるところから始まるのです。しかしトマスは兄弟姉妹の証しを受け入れませんでした。

トマスは復活には懐疑的ではありませんでしたが、反面的に簡単に信じ込んでいることがありました。それは神でも死には勝てないということでした。なので彼にとっては、復活を調べる必要もなかったのです。彼は信じやすい性格だったのです。そしてだまされ易い性格だったのです。それはサタンにです。

自分はだまされないぞと、懐疑的であることが論理的であるかのように錯覚しがちですが、それは不信仰を信じ込んでいるだけなのです。クリスチャンも同様で、神様のことばをもっと本気で信じるべきです。

この福音書も含めて「書かれたのは」、「信じていのちを…得るため」だからです。聖書を本気で信じましょう。適当に聞き流すことのないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



14日 金曜

ヨハネ



21:1 その後、イエスはティベリア湖畔で、再び弟子たちにご自分を現された。現された次第はこうであった。

21:2 シモン・ペテロ、デドモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼベダイの子たち、そして、ほかに二人の弟子が同じところにいた。

21:3 シモン・ペテロが彼らに「私は漁に行く」と言った。すると、彼らは「私たちも一緒に行く」と言った。彼らは出て行って、小舟に乗り込んだが、その夜は何も捕れなかった。

21:4 夜が明け始めていたころ、イエスは岸辺に立たれた。けれども弟子たちには、イエスであることが分からなかった。

21:5 イエスは彼らに言われた。「子どもたちよ、食べる魚がありませんね。」彼らは答えた。「ありません。」

21:6 イエスは彼らに言われた。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすれば捕れます。」そこで、彼らは網を打った。すると、おびただしい数の魚のために、もはや彼らには網を引き上げることができなかった。

21:7 それで、イエスが愛されたあの弟子が、ペテロに「主だ」と言った。シモン・ペテロは「主だ」と聞くと、裸に近かったので上着をまとい、湖に飛び込んだ。

21:8 一方、ほかの弟子たちは、魚の入った網を引いて小舟に戻って行った。陸地から遠くなく、二百ペキスほどの距離だったからである。

21:9 こうして彼らが陸地上がると、そこには炭火がおこされていて、その上には魚があ

り、またパンがあるのが見えた。

21:10 イエスは彼らに「今捕った魚を何匹か持って来なさい」と言われた。

21:11 シモン・ペテロは舟に乗って、網を陸地に引き上げた。網は百五十三匹の大きな魚でいっぱいであった。それほど多かったのに、網は破れていなかった。

21:12 イエスは彼らに言われた。「さあ、朝の食事をしなさい。」弟子たちは、主であることを知っていたので、だれも「あなたはどなたですか」とあえて尋ねはしなかった。

21:13 イエスは来てパンを取り、彼らにお与えになった。また、魚も同じようにされた。

21:14 イエスが死人の中からよみがえって、弟子たちにご自分を現されたのは、これですでに三度目である。

イエス様の復活を経験した弟子たちでしたが、それだけでは何を目標に生きていったら良いのかわからなかったようです。彼らは元の生活に戻るしかなく、ペテロが無気力に漁を始めようとすると、他の者たちももただそれに追随しました。

しかし何も獲れずに空しい結果でしかありませんでした。そのときに主が訪れます。主は必要を与え、働きに成功を与えてくださいます。そしてその恵が神である主ご自身から来ることを悟らせてくださるのです。それは私たちにとっても同じです。主の復活を受け入れるだけでなく、その主の思いと使命に生きることです。

さらに主は、ここにあるパンと魚のように、生きるための恵をも用意してくださいます。それは次節から記されているような、尊い使命へと召し出してくださるためです。

恵を受けつつ、使命へと導かれましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15日 土曜

ヨハネ



21:15 彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たちが愛する以上に、わたしを愛していますか。」ペテロは答えた。「はい、主よ。私があなたを愛していることは、あなたをご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの子羊を飼いなさい。」

21:16 イエスは再び彼に「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛していますか」と言われた。ペテロは答えた。「はい、主よ。私があなたを愛していることは、あなたをご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を牧しなさい。」

21:17 イエスは三度目もペテロに、「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛していますか」と言われた。ペテロは、イエスが三度目も「あなたはわたしを愛していますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ、あなたはすべてをご存じです。あなたは、私があなたを愛していることを知っておられます。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」

21:18 まことに、まことに、あなたに言います。あなたは若いときには、自分で帯をして、自分の望むところを歩きました。しかし年をとると、あなたは両手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をして、望まないところに連れて行きます。」

21:19 イエスは、ペテロがどのような死に方で神の栄光を現すかを示すために、こう言われたのである。こう話してから、ペテロに言われた。「わたしに従いなさい。」

21:20 ペテロは振り向いて、イエスが愛された弟子がついて来るのを見た。この弟子は、夕食の席でイエスの胸元に寄りかかり、「主よ、あなたを裏切るのはだれですか」と言った者である。

21:21 ペテロは彼を見て、「主よ、この人はどうなのですか」とイエスに言った。

21:22 イエスはペテロに言われた。「わたしが来るときまで彼が生きるように、わたしが望んだとしても、あなたに何の関わりがありますか。あなたは、わたしに従いなさい。」

21:23 それで、その弟子は死なないという話が兄弟たちの間に広まった。しかし、イエスはペテロに、その弟子は死なないと言われたのではなく、「わたしが来るときまで彼が生きるように、わたしが望んだとしても、あなたに何の関わりがありますか」と言われたのである。

21:24 これらのことについて証しし、これらのことを書いた者は、その弟子である。私たちは、彼の証しが真実であることを知っている。

21:25 イエスが行われたことは、ほかにもたくさんある。その一つ一つを書き記すなら、世界もその書かれた書物を収められないと、私は思う。

主イエスは、かつて期待に応えられなかったペテロを、もう一度立ち上がらせてあげたいと、愛を持って取り扱われました。主イエスが十字架にかかる前に3回も裏切ったことに対して、3回の質問をもって彼の愛を回復させ、それを認めてあげようとなさったのです。

しかも「わたしの羊を飼いなさい」と、最も重

要な働きを託されたのです。人を育てることは厳かな使命であることを知しましょう。

主は今後に起こるペテロの殉教を知っておられ、彼にその心構えを与えられました。ペテロは他の人ことが気になったようですが、主は自分の十字架を負うことを求めておられます。人との比較ではないのです。働きは主からの使命そして、主の愛をもらいつつ、自分自身に固有に与えられた尊い働きとして行っていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





1:1 エジプトの地を出て二年目の第二の月の一日に、【主】は、シナイの荒野の会見の天幕でモーセに告げられた。

1:2 「イスラエルの全会衆を、氏族ごと、一族ごとに調べ、すべての男子を一人ひとり名を数えて、その頭数を調べよ。

1:3 あなたとアロンは、イスラエルにおいて、二十歳以上で戦に出ることができる者をすべて、その軍団ごとに登録しなければならない。

1:4 また部族ごとに一人ずつ、一族のかしらである者が、あなたがたとともにいなければならない。

1:5 あなたがたの助手となるはずの者の名は次のとおりである。ルベンからはシェデウルの子エリツル。

1:6 シメオンからはツリシャダイの子シェルミエル。

1:7 ユダからはアミナダブの子ナフション。

1:8 イッサカルからはツアルの子ネタンエル。

1:9 ゼブルンからはヘロンの子エリアブ。

1:10 ヨセフの子らからは、エフライムからアミフデの子エリシャマ、マナセからベダツルの子ガムリエル。

1:11 ベニヤミンからはギデオニの子アビダン。

1:12 ダンからはアミシャダイの子アヒエゼル。

1:13 アシェルからはオクランの子パグイエル。

1:14 ガドからはデウエルの子エルヤサフ。

1:15 ナフタリからはエナンの子アヒラ。」

1:16 これらの者が会衆から召し出された者で、その父祖の部族の長たちである。彼らがイスラエルの分団のかしらたちである。

1:17 さて、モーセとアロンは、これら指名された者たちを伴い、

1:18 第二の月の一日に全会衆を召集した。そこで氏族ごと、一族ごとに、二十歳以上の者の名を一人ひとり数えて、その家族表で本人を確認した。

1:19 【主】がモーセに命じられたように、モーセはシナイの荒野で彼らを登録した。

民数記とは民の数、特に戦士の数を数えるということで、それは戦いのための備えです。私たちもこの世というサタンの力が残る場所に生きていますから、敵対する力があるのです。主の愛を全うするのは、厳しいのです。その覚悟と備えも必要であることを覚えましょう。

またこの書のヘブル語の題名は、ベ・ミドパールすなわち荒野にてという意味です。その意味するところは、この世は荒野であって、約束の地に行くまでには信仰の戦いが必要であるということなのです。

私たちの人生は何事も、そしていつまでも安泰ということはありません。優先順位をしっかりとさせて、現実を直視し、決断して、主の恵によって努力しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

